

花

曇

タイトルの「花曇」は、真紅の私には
いささか華やか過ぎると思えますが

水飴の

気泡うごかず

花曇

によるもので、「モノに語らせ、目に見
える俳句を」という私の作句信条がよ
く表れていると思いたいタイトルといたし
ました。

(あとがきより)

囀
の
真
ん
中
に
引
く
プ
ル
ト
ッ
プ

ふ
ら
こ
こ
の
子
を
空
へ
や
る
手
の
加
減

三月来ドレッシングをよく振れば

老舗みなビルに収まり燕来る

鳥雲に遺跡といふも穴五つ

麦秋や切手の王妃ひだり向き

母の日と書く黒板の深みどり

郭公やカンバスにまづ地平線

楡の木に吊す黒板夏期講座

金魚より夕焼色の泡ひとつ

室外機並ぶアパート大西日

気働きとふ働きに汗すこし

新涼のキリトリ線に鋏の絵

鮎落ちて闇のしかかる奥秩父

縁側に茶の冷めてゐる松手入

秋晴や一人にひとつ家の鍵

抽斗のするりと開いて秋彼岸

よく弾む花野歸りのツアーバス

虫の音を小さく分けて分譲地

営みは屋根の数だけ翳雲

巻尺のかしやんと戻り冬に入る

お手玉の中に鈴の音一葉忌

夜の雨は雪に電話は圏外に

レコードに針下りて雪降りはじめ

雪晴や割箸にある松の香

凍星や吊して捌く深海魚

自販機に売切れランプ寒波急

短日や過敏に開く自動ドア

まばたきは瞬の黙祷冬銀河

着膨れて失せざるものに負け嫌ひ

冬麗や匙を埋めて砂糖壺

砂時計砂落ちきつて冬ざるる

鉛筆を削れば木の香雪催ひ

黒板にきのふの日付日脚伸ぶ

雲厚きままに日暮れて多喜二の忌

指置けばくもる鍵盤春の雪

まだ眠る沼くすぐつて魷を挿す

風光る沼百千の棒立てて

校庭にオルガン出され風光る

掌の中にマウスの火照る春の雪

三月や吸ふときも鳴るハーモニカ

春光と画板をのせて膝小僧

花冷やふすんと抜ける烏賊の腸わた

子の息が空にいつぱい石鹼玉

水筒に小さな磁石山笑ふ

春光へしゆるんと飛んで鉋屑

鳥籠に鳥のブランコ春深し

みどりの夜ビオラ疾走チエロ追走

包帯の中の脈拍新樹の夜

蚕豆にあはき塩味われに詩



句集 花曇 はなぐもり

二〇一三年二月三日 初版発行

著者——林 昭太郎

発行人——山岡喜美子

発行所——ふらんす堂

〒182-0002 東京都調布市仙川町一―一五―三八―2F

電話——〇三(三三三三六)九〇六一 FAX〇三(三三三三六)六九一九

ホームページ <http://furansudo.com/> E-mail info@furansudo.com

振替——〇〇七〇一―一八四一七三

装幀——和 兎

印刷——日本ハイコム株

製本——株松岳社

定価——本体二八〇〇円+税

ISBN978-4-7814-1531-4 C0092 ¥2800E

乱丁・落丁本はお取替えいたしません。

著者略歴

林昭太郎 (はやし・しょうたろう)

- 1941年(昭和16年) 5月24日 千葉県生まれ
1970年(昭和45年) 東京藝術大学 美術学部卒業
1976年(昭和51年) 作句開始、「沖」入会
1979年(昭和54年) 「沖」潮鳴集同人
同年 作句中断
2004年(平成16年) 作句再開、「沖」再入会
2006年(平成18年) 「沖」潮鳴集同人
2012年(平成24年) 第一句集『あまねく』上梓
2013年(平成25年) 「沖」珊瑚賞 受賞
「沖」蒼茫集同人
2015年(平成27年) 沖俳句コンクール入選一位

俳人協会会員